

沖縄の伝統文化を観光に

沖縄県立読谷高等学校

3 年生 砂辺 麻衣

私が学ぶ読谷高校は沖縄本島中部、沖縄が誇る西海岸を一望できる読谷村にあります。また、読谷村は県内でもリゾート開発が進みリゾートホテルも数多く立ち並び、国内外からの観光客を多く迎えています。しかし、多くの観光客を魅了しているのはそれだけではありません。そして、私たち沖縄県民も、沖縄のもつ、もうひとつの大きな魅力に気が付いていないのではないのでしょうか。読谷村を例に説明したいと思います。

読谷村には、世界遺産のひとつである座喜味城跡、県内屈指の夕陽スポットのひとつである残波岬、伝統工芸である琉球ガラス、壺屋焼きの窯元であるやちむんの里、読谷花織、伝統芸能である琉球舞踊・三線・棒術などがあります。さらに、琉球古典音楽の始祖である赤犬子発祥の地です。そのため、地域の自治体が主体となり子供達が伝統芸能を習得できる場があります。私は小学生の時に読谷村が企画する小中高生を対象とした三線クラブに所属し、琉球古典音楽を学ぶ機会がありました。読谷村では習得することができるだけでなく、習得したことを披露する機会も設けられています。披露する機会があることにより、学ぶ楽しさや、より技術を高めたい、他の地域にも広めたいとの気持ちも生まれます。三線だけではなく、琴、琉球横笛、太鼓、舞踊など、琉球古典音楽に直接触れることができ、沖縄の文化の素晴らしさをより深く感じることができました。

私は読谷村の取り組みは全国のモデルになるようなものだと思います。私はこの習った経験を通して琉球古典音楽を沖縄だけにとどまらずに、世界に発信したいと思うようになりました。観光客が伝統芸能に直接触れることで沖縄の素晴らしい文化をより深く感じるができると思います。しかし、他の地域では読谷村が行っている取り組みを実際に行っている所はあまり多くはありません。このままでは世界に発信するどころか、文化が途絶えてしまいます。そこで、私は提案したいことが四つあります。

- 一． 伝統芸能をより魅力的に伝える人材を育成する。例えば、自治体は幼少期から伝統芸能に学び、触れる機会を積極的に作り、観光の場で披露できる人材を育てる。
- 二． 伝統芸能を披露する機会を多く設け、SNS を活用して広く伝える。
- 三． 民泊に修学旅行生や海外の旅行客を多く受け入れ、地元の人が伝統芸能を披露する場面や地元の食材を使った沖縄料理と一緒に作り食べる。そのような「ゆんたく」の機会を増やし、参加型修学旅行や海外客をもてなすホームステイ体験旅行などを企画する。
- 四． 昨今の空き家問題や宿泊施設の不足にも目を向け、行政が積極的に働き、リノベーションやリフォームなどで民泊として活用できる仕組みを構築させ、その場で伝統

芸能を披露することにより、一層身近に感じてもらう。

想像してみてください。例えば、ハワイではフラダンスが有名ですが、日本でのフラダンス人口は二百万ともいわれています。その方々があこがれのハワイを訪れ、また、自分たちの地元でダンスを教え、その教え子たちがハワイを訪れることを考えたら、琉球舞踊やエイサー、三線なども同様の経済効果をもたらす時がくるのではないのでしょうか。また、世界遺産で観光客参加型のイベントを行い、伝統芸能と IT を駆使したプロジェクションマッピングなどをつなぎ合わせたら、伝統と現代アートが融合し、新たな沖縄の文化を発見できる観光になると思います。

結論として、伝統芸能を伝える人材づくりと、観光客が民泊や伝統芸能を通して沖縄県民と交流する場を設けることにより、人と人との温かい交流やコミュニケーションが生まれ、沖縄へのリピーターを増やすことができるのではないかと考えます。

沖縄にとって観光産業とは、なくてはならない主要産業となっています。自立経済を目指すために最も発展が必要な産業と考えます。

しかし、沖縄観光に関する県民意識調査では、沖縄観光が発展すると生活も豊かになると思うかとの問いに、三割弱が「とても思うもしくはやや思う」と回答しているのに対して、七割強の県民が「どちらとも言えない、あまり思わない、全く思わない」と回答しています。県民ひとりひとりが沖縄県民の特性やアイデンティティを意識し、さらにいっそう誇りを持つようになれば、世界から訪れる観光客にもここを見てほしい、ぜひ、ここも訪れてほしいと意識も変わると思います。それに伴い、行政は県民にわかりやすく、観光による収益やそれに伴うメリットなどを説明し、啓蒙活動をより一層強化する必要があると思います。

県民ひとりひとりが、おもてなしの心を持って「観光立県沖縄」「ウェルカムンチュ」を意識するようになれば、沖縄観光がさらに高いレベルに到達できると考えます。